

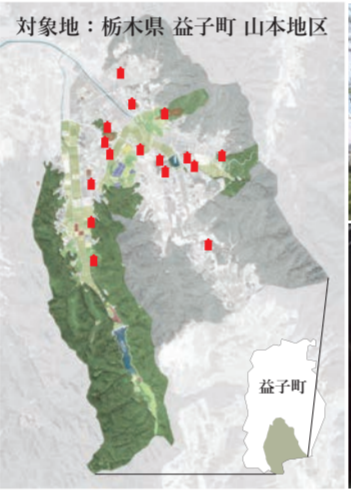
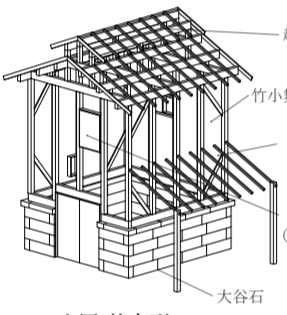
# ペーハ小屋再生プロジェクト

これまでの益子の風景で造る、これからの益子の風景  
 徐々に姿を消す「ペーハ小屋」、建築的再生を試みることで、  
 益子の歴史と風景を未来に引き継ぐ。



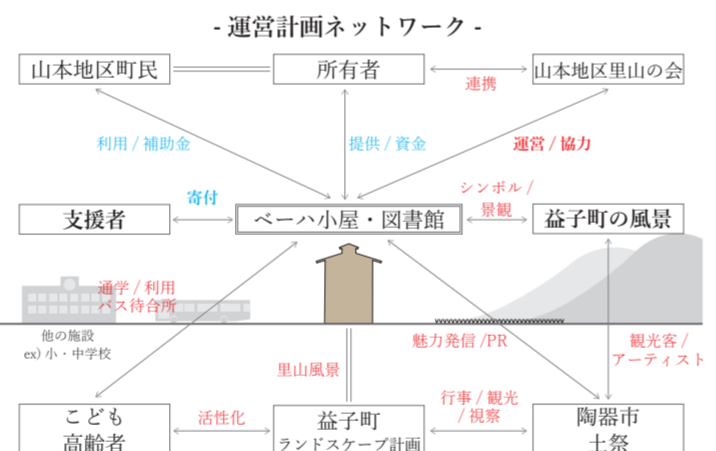
## 00. 「ペーハ小屋」

「ペーハ小屋」と呼ばれるタバコ乾燥小屋は、かつての益子町では葉タバコ生産の増加と共に数多く造られ、益子の風景に当たり前のものとして存在してきた。機能性を重視し、シンプルな佇まいと独特な形態を持つ「ペーハ小屋」は、益子町の暮らしと産業における歴史の一部であり、また益子ならではの里山風景の一部である。特に山本地区は数多く存在し、現在は乾燥方式が変化し役割を終え、倉庫や放置されているものがほとんどである。

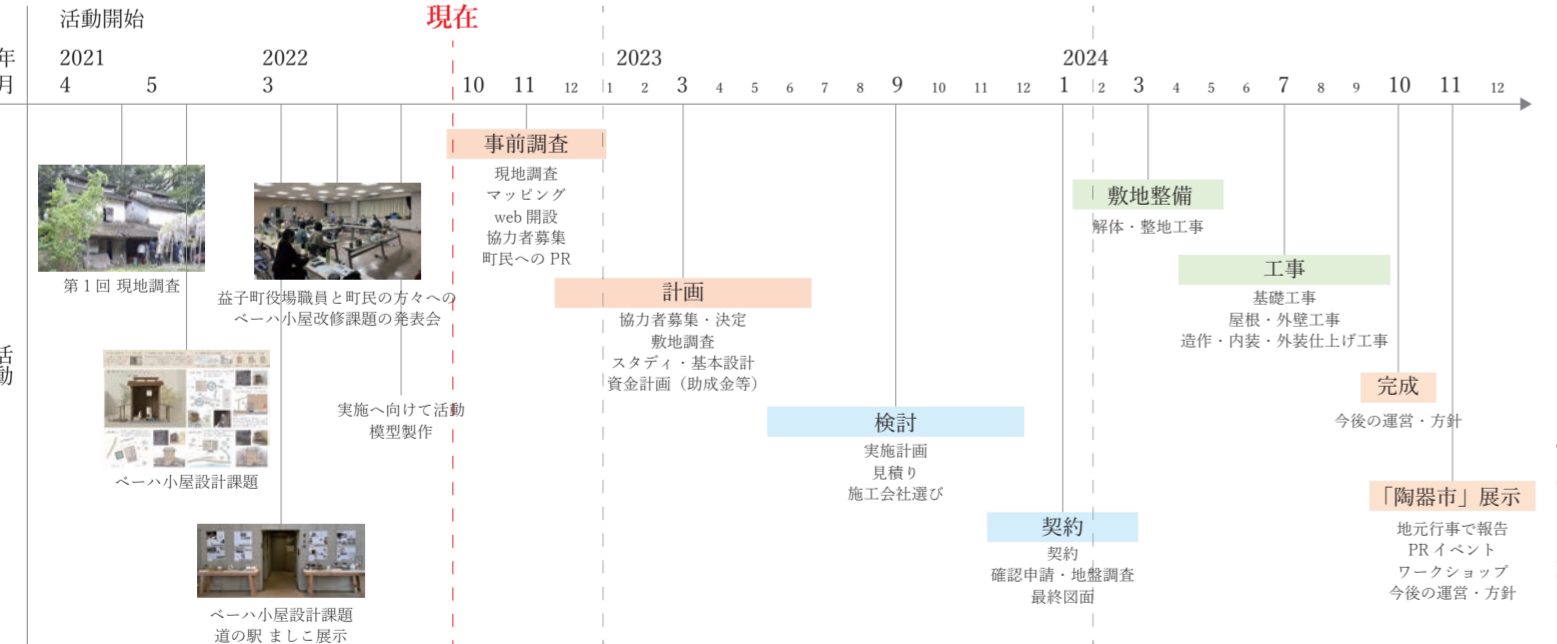


## 01. 益子の資産でつながる益子の風景

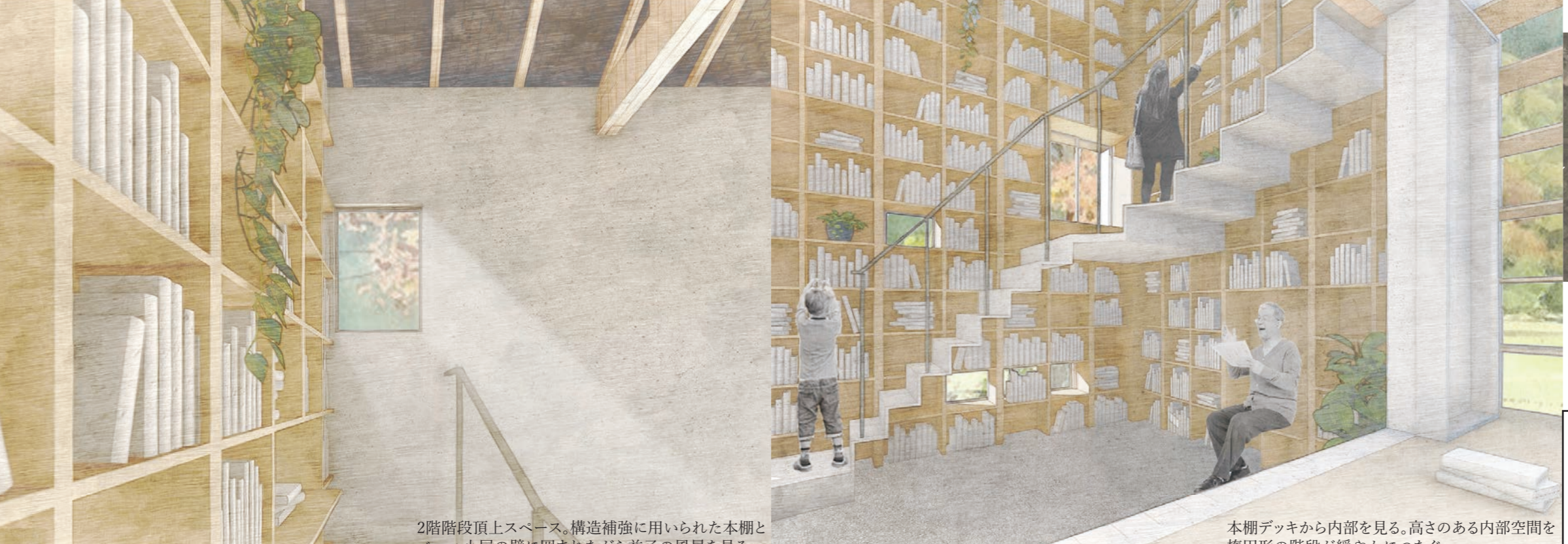
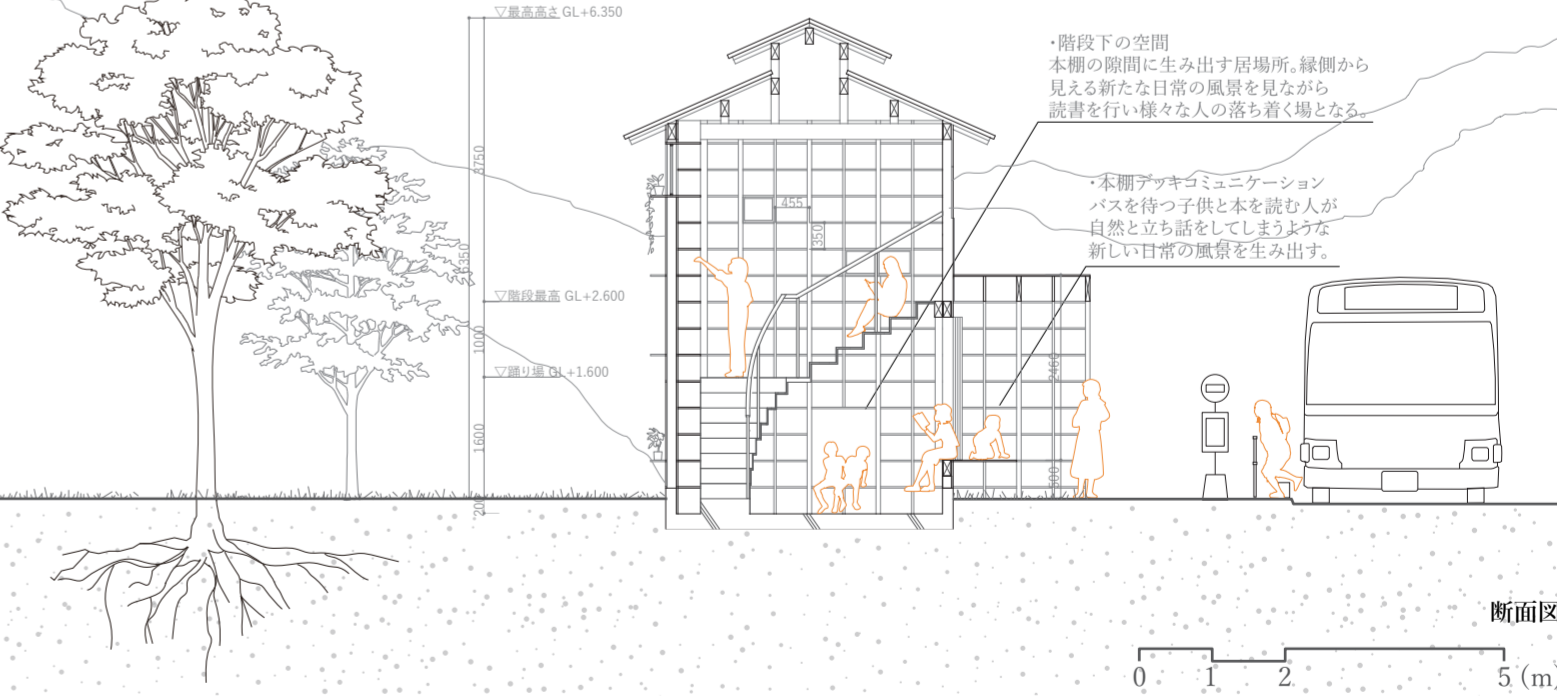
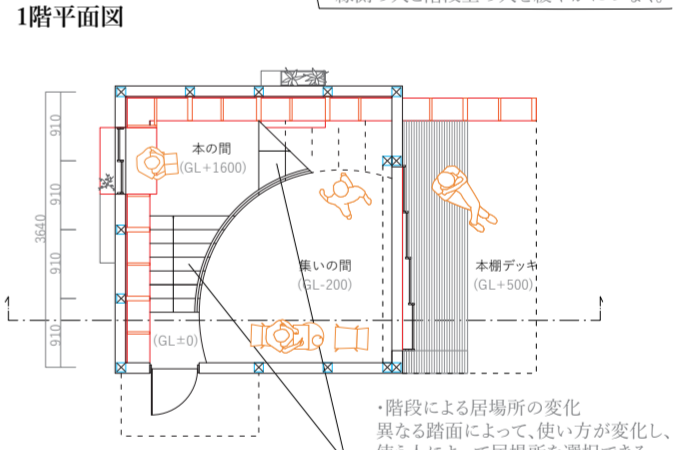
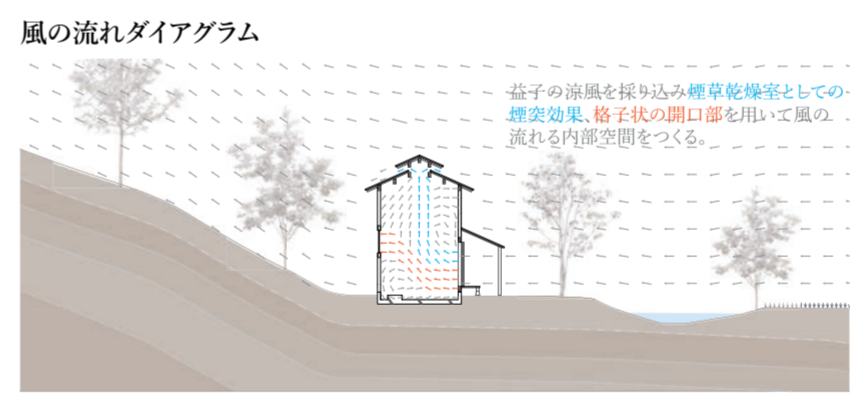
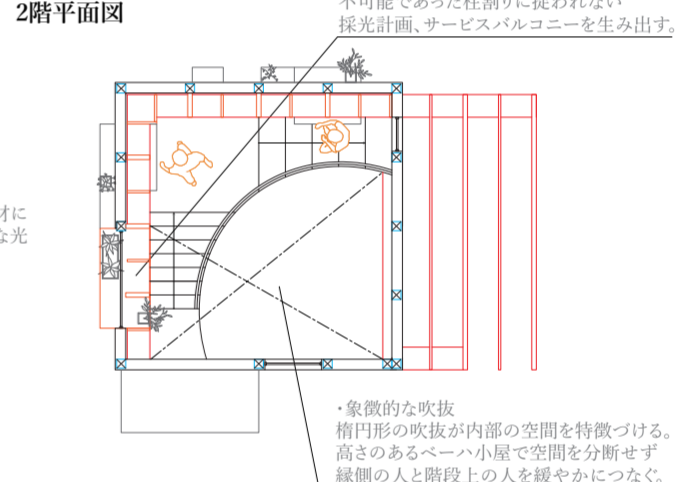
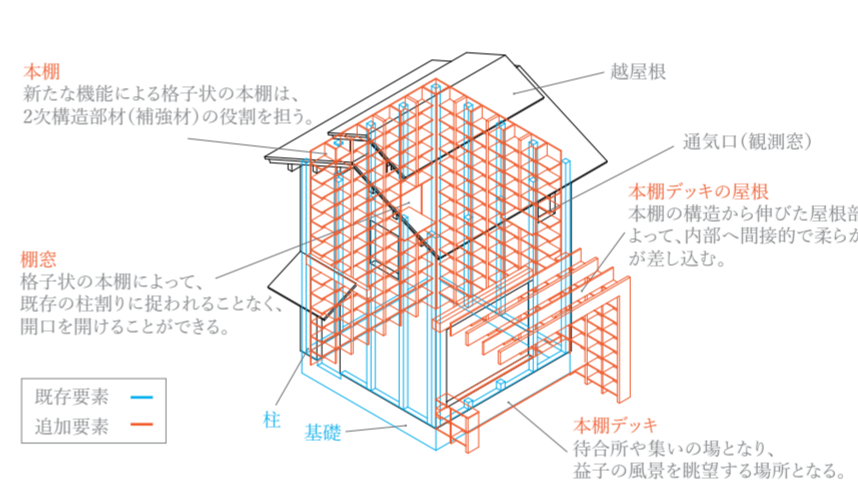
2021年度から新たに誕生した建築ランドスケープ研究室・小嶋芳秀教授による「益子町ランドスケープ計画」の一環として活動を開始した。益子町に図書館がないことに着目し、ペーハ小屋に図書機能を付加させ建築的再生を試みる。益子の風景に点在しているペーハ小屋を各家々から徒歩20分圏内に配置した「ペーハ小屋・図書館」として提案する。新たな役割を担うペーハ小屋は、これまでの風景から刷新し、これからの益子の風景を未来に引き継いでいく。新たな研究室による新たなプロジェクトが始動する。



## 02. 年間スケジュール



## 03. 基本設計 ペーハ小屋・図書館



## 04. 今後の方針・展望

かつて益子の日常に溶け込んでいたペーハ小屋を再生させ活用につなげることを目的とする。町に点在するペーハ小屋に、不足する図書機能を持つ「ペーハ小屋・図書館」として図書ネットワークを拡げ、住民の日常の風景となることを願う。

代表者：佐藤 衆和  
 mj22062@shibaura-it.ac.jp  
 KOBANAWAGRAM

2階階段頂上スペース。構造補強に用いられた本棚とペーハ小屋の壁に囲まれながら益子の風景を見る。  
 本棚デッキから内部を見る。高さのある内部空間を楕円形の階段が緩やかにつなぐ。